JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

6期—11号

2006.09.15

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる　01
From the President / Masaru MAENO

2006年次第2回拡大理事会報告（5／27）／赤坂　信　02
Reports on the 2nd Meeting of the Executive Board, 2006
Makoto AKASAKA

歴史的庭園文化的景観国際委員会（ISC）2006年会合報告　04
杉尾伸太郎
Report on the Annual Meeting of Historic Gardens and Cultural Landscapes（ISC）2006 / Shintaro SUGIO

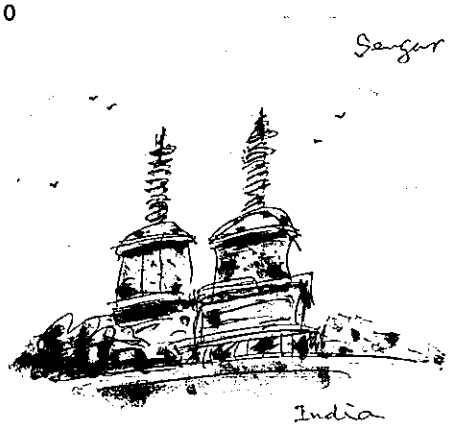
アジア太平洋地域会議と
CULTURAL TOURISM（ISC）ワークショップ／前野まさる　05
Asia-Pacific Region Conference and the Workshop of Cultural Tourism（ISC）/ Masaru MAENO

石見銀山遺跡 現地視察と
国際シンポジウム「鉱山遺跡の文化的景観」／赤坂　信　06
Excursion and International Symposium at the Iwami Ginzan Silver Mine Site / Makoto AKASAKA

座談会「文化的景観から見た熊野古道」に参加して／赤坂　信　07
Discussion on the World Heritage Kumano-kodo as Cultural Landscape / Makoto AKASAKA

お知らせ　09
Announcement

事務局日誌　10
Diary



イラスト／前野まさる

はじめに

前野まさる

第2回の拡大理事会は去る5月27日、大田市世界遺産担当の方と教育委員会の皆さんのお力添えで、石見銀山遺跡の視察と日本イコモス国内委員会の理事会を無事終了いたしましたこと、さらに翌日のシンポジュームにも参加させていただき、誠にありがとうございました。来年の石見銀山世界遺産登録をお祈りいたします。

その後、ICOMOSの各専門委員会が各国で開催されました。6月には韓国でアジア太平洋地域会議とCULTURAL TOURISMワークショップが開催され、9月にはISTANBULでは木の委員会が開催されます。

去る7月末スウェーデンのICOMOS委員長のロットシュタインさんご夫妻が京都経由で来日されました。急でしたので日本イコモス有志で夕食の宴を持ち、友好的な一時を過ごしました。

文化財保存計画協会が、8月に恵比寿から一ツ橋の岩波書店ビルに引越したことに伴い、日本イコモス国内委員会の事務所もくっついて引越しさせていただきました。目下引越しの後片付けに追われています。6月から齊藤雪絵さんが留学前の合間を使い、ボランティアで日本イコモス事務所の資料整理をしてくださり、人手不足の事務局にとって大変な福音となっています。

ところで、一昨年10月のCIAV年次会議で始まった鞆の浦港の保存問題は、昨年の西安総会決議や小泉首相の「外国人から見た観光町づくり懇談会」参加の外国人からも、鞆の浦保存が求められましたが、福山市の強硬な姿勢で未だ決着がついていません。

今年3月からの広島原爆ドーム景観問題について地元住民代表と広島UNESCO協会から日本イコモス国内委員会の見解を求められ、国内委員会としての懸念表明をしたことは前号のJAPAN ICOMOS/INFORMATIONでお知らせいたしました。これも未だ決着はついていません。

世界遺産のSETTING・景観問題は、ますます論議されることになるでしょう。日本の世界遺産周辺でも観光と交通、住民の生活問題、開発と景観問題などが起きています。日本イコモス国内委員会としても、こうした問題に対して研究・対処していく必要もあり、今後とも会員の皆さんのご助言、ご協力をよろしくお願い致したいと思います。

2006年次第2回理事会（拡大理事会）記録

2006年度第2回理事会（拡大理事会）が去る2006年5月27日(土）午前と午後の石見銀山視察の後、島根県大田市温泉津（ゆのつ）旅館吉田屋で午後4時15分から午後6時25分まで開催された。

出席者は、委員長：前野まさる、副委員長：杉尾伸太郎、事務局長：矢野和之、理事：赤坂　信・稲葉信子・岡田保良（本部執行委員）・濱崎一志・益田兼房・村上裕道・山田　修・山田幸正、顧問：伊藤延男各氏で、報告事項および審議事項は以下の通りである。

1. 2006年次第1回拡大理事会報告

配付されたJAPAN ICOMOS/INFORMATION誌第6期10号に基づき、前野委員長より、その概要が報告された。

2. 小委員会報告

■憲章小委員会（第1小委員会）主査：藤井

4月27日東京大学において開催

故稲垣栄三先生の論文を中心に建造物の保存の考え方や関連のターミノロジーを10名ほどで勉強する会が開かれた。今後は他の論文にも目を向けていく予定である。以上、益田委員からの報告。

■世界遺産委員会（第4小委員会）主査：稲葉

3月30日東京都渋谷区恵比寿の文化財保存計画協会において開催

稲葉主査より世界遺産バーミヤンの保存事業についての発表があり、遺跡保存の国際協力事業に関わった専門家との討論や、情報交換が行われた。以上、稲葉委員が報告。

■プロヴディフ旧市街地保存地区文化財建造物修復事業小委員会（第5小委員会）主査：石井

現地の会議には石井主査と麓委員が出席した。来年いっぱいに修復を終わらせ、設計監理は地元でできるようにしたい。麓委員は現地で技術指導（トレーニング）にあたっている。現在、ブルガリアのイコモス委員長はクレスティフ氏からスタネーバ氏に交替している。ユネスコの無償援助が、これまでのプロヴディフではなく古墳記念館にあてられるもようである。以上、矢野事務局長から報告。

■文化遺産と都市開発の課題小委員会（第6小委員会）主査：益田

鞆ノ浦港埋め立て架橋問題、白川郷の交通問題、宇治市のマンション問題、その他について益田委員から報告があった。

■広島原爆ドーム懸念表明の報告

詳細は、すでにJAPAN ICOMOS/INFORMATION（6期10号P.7～8）に掲載してあるので参照されたい。また危機世界遺産ケルン大聖堂の関連写真についてTV朝日放送の使用許可をペツェット委員長から得たことが前野委員長から報告された。関連する資料としてHERITAGE AT RISK ICOMOS WORLD REPORT 2004/2005 ON MONUMENTS AND SITES IN DANGERの該当ページコピーが配布された。

3. 国際専門分科委員会（ISC）報告

■ Historic Gardens and Cultural Landscapes

国際記念物遺跡会議　歴史的庭園文化的景観国際委員会2006年会合について杉尾伸太郎副委員長から報告があった。理事会後の情報を加えて別途、本誌で掲載する。

■ Wood 国際「木」の委員会

伊藤延男委員から配布資料で、以下の報告があった。長らく休眠状態にあった「木の委員会」は再開されることになった。トルコでシンポジウムが9月に開かれることもあり、協議の結果、伊藤委員がvoting memberに決定した。伊藤委員は日本メンバーの増強を図るため、従来のメンバーに書面で今後の活動の意思とトルコ会議への参加の確認している。現在イスタンブールで開催されるシンポジウムでの準備を進めている。

■ CIPA

山田修委員から、2009年に日本（京都か）での国際大会の開催が決まり、日本写真測量学会などが準備を進めているが、文化財側の参加を呼びかけていることが報告された。

■ CIAV

2006年次会議はメキシコにおいて、テーマ「Pride of Place」で11月6～10日に開催されることが前野委員長から報告された。

4. 会費滞納者の扱いについて

3年以上の滞納者はパリICOMOS本部への登録を停止した。

審議事項

1. 入退会者の承認

入会者（個人）

氏　名	所属・専門・ISC	推薦者
石原　渉	財団法人 日本習字教育財団 海洋考古学　ISC/UNDERWATER CULTURAL HERITAGE	荒木伸介・矢野和之
ウーゴ・ミズコ	東京文化財研究所・国際文化財保存修復研究協力センター 歴史的建造物の保存修史　ISC/STONE	青木繁夫・稲葉信子
太田（中川）明子	独立行政法人国立高等専門学校機構 徳山工業高等専門学校 土木建築工学科助手 西洋建築史　歴史的建築保存 ISC/STONE	伊藤重剛・岡田保良
西田雅嗣	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科　助教授 西洋建築史　ISC/HISTORIC TOWN AND VILLAGES	日高健一郎・岡田保良
メンドサ・島田・オルガ・ケイコ	東京芸術大学大学院 文化財保存学専攻 保存修復建造物研究室 ISC/ HISTORIC TOWNS AND VILLAGES	前野まさる・益田兼房

以上、これまでに申請のあった上記新規個人会員5名の入会について、資料を閲覧し、かつ慎重に審議した結果、これを承認した。

退会者（個人）

氏　名	所　属	事　由
中里寿克	元東京国立文化財研究所 第一修復技術研究室長	一身上の都合による

今回の入退会者を含め、現在の日本イコモス国内委員会の会員数は、個人286名・維持会員13社となった。

協議事項

1.「原爆ドームと祈りの景観形成に関する懸念表明」

日本イコモス国内委員会で作成した上記の懸念表明を広島市議会議長藤田博之氏、広島市長秋葉忠利氏に送付し、その英文版をパリのイコモス本部に通知することが前野委員長より提案され、協議の上、承認された。

2. 国内の世界遺産モニタリングについて

現在、「世界遺産実施運営ガイドライン」の最新版（2005年）が、ユネスコのホームページに公開されている。前回改訂（2003年）のものと比べると項目数も139から290項目と増加している。何をモニタリングするか、さらに明確に記録することが求められている。日本イコモスとしても国内の世界遺産を、他国の人の目も入れたモニタリングが可能か検討の段階に入っていると矢野事務局長から報告され、協議された。

（文責:赤坂　信）

歴史的庭園文化的景観国際委員会（ISC）2006年会合報告

日本イコモス国内委員会副委員長　杉尾伸太郎

歴史的庭園文化的景観国際委員会（International Committee on Historic Gardens - Cultural Landscapes 又はICOMOS-IFLA）の2006年会合が、2006年4月29日（土）及び30日（日）にポルトガル国コインブラにおいて開催された。また、会議にあわせて「中世庭園とロマン主義（The Medieval Garden and its Romantic Interpretation）」と題する国際シンポジウムが5月1日（月）、2日（火）の2日間に渡って開催された。日本イコモス国内委員会からは、杉尾伸太郎（日本代表・副会長）がvoting memberとして出席し、日本イコモス国内委員の大野渉が同行した（2003年ドイツ会合以降3回目）。アジア・オセアニア地域からの出席は日本のみで、その他イタリア（会長）、イギリス（副会長）、アルゼンチン（副会長）、ポルトガル（開催国）など合計15カ国からの出席があった。

会議では、①委員会の定款（statute）改定とEger-Xi'an Principles、②ICOMOS-IFLA委員会2005年活動報告及び3年間活動計画、③委員会の名称変更、④文化的景観に関する世界遺産登録推薦審査ミッションへの関わり、⑤アルゼンチン国ブエノスアイレスの文化的景観としての世界遺産登録運動、⑥ヨーロッパの教育標準化の動きに関連した、造園分野の教育における歴史的庭園の保存・修復の扱い（通称「ル・ノートルプロジェクト」）、⑦歴史的庭園のインベントリー作成のための様式の作成、⑧Villa Ocampo a San Isidro（ブエノスアイレス）の庭園修復、インドKhajurahoの庭園修復、ロンドンのスカイラインの保全、シリア国ダマスカスの庭園の保全の必要性など委員による情報提供、⑨ウィーンメモ（Vienna Memorandum on World Heritage and Contemporary Architecture - Managing the Historic Urban Landscape）及びセッティングに係る西安宣言についての周知を議題とし、活発な討議、意見交換が行なわれた。特に、文化的景観に関する世界遺産登録推薦審査ミッションへの関わりについては、文化的景観を専門分野とする本委員会として、今後、より積極的に文化的景観に関わる世界遺産登録推薦資産の審査ミッションに関わっていくことが確認された。杉尾は、2005年の国内での活動報告を行ない、歴史的庭園のインベントリー様式の検討資料として、文化庁記念物課の協力を得て作成した「文化財指定されている歴史的日本庭園のリスト」（英文）を委員会に提出した。

次回会合は、2006年10月5日にイタリアヴェルバニアで開催（2004年に予定されていた会議が実際には2005年の開催になったため2006年は変則的に2回会合が開かれる）され、その後は、2007年にノルウェーまたはオーストリア、2008年にアメリカで開催される予定である。2009年以降は開催国が決まっていなかったが、アジア地域での活動を活発化する効果への期待や、今まで日本での開催が一度もないことから、委員のなかに日本での開催を望む声があることを考慮し、日本で2009年、2010年頃に委員会を開催することを検討することを約束した。

アジア太平洋地域会議とCULTURAL TOURISM（ISC）ワークショップ

日本イコモス国内委員会委員長　前野まさる

アジア太平洋地域会議とISCのCULTURAL TOURISMワークショップが本年年6月10日～13日の間、韓国ソウル市と安東市、慶州市で開催された。

参加国は24カ国、参加者は44名であった。日本からはCULTURAL TOURISMのVOTING MEMBERである宗田好史先生と私の二人で参加することにしていたが、残念ながら当日手のはなせない急用が出来て、私一人の参加となった。会議日程は、以下の通り。

前日9日、夕食会で顔合わせ。

初日10日は、基本提言と文化観光のアジア太平洋各国の取り組みと題し、地域別に3部に分けて進められた。

第1部　日本は京都の保存と再生として宗田氏の論文を韓国の李女史が代読。中国は麗江の保存と管理運営について論じ、韓国は河回民俗村の保存管理の社会的問題の理解を論じた。

第2部　インドネシアは伝統的村落に対する文化観光のインパクトについてカンプンナガの事例から論じた。フィリピンは世界遺産の観光優先の創設と題し、観光旅行者はその地域の価値を理解し、その町を訪ねることが更に良い実りある観光になること、45分の見学では地域に何も貢献しない観光の現実を論じ、また、現在フィリピンではNGOが住民に地域文化の教育を始めている現状を説明した。タイは過度な観光による個人の生活弊害になっていること、商業地域では住民が地域の文化に無関心であることも弊害になっている状況を説明した。

第3部　インドは歴史的都市ラダックの観光のインパクトの状況を論じ、スリランカは宗教文化観光と地域社会のあり方を論じた。オーストラリアは歴史的町の観光客の受け入れーいかに住民の要求をなじませるかを論じた。

11日は、慶州の良洞里両班邸宅と良洞民俗村視察で、慶州郊外北方15km程にある良洞里の15世紀の学者の邸宅と良洞民俗村の両班邸宅などを視察した。

12日は、安東の広徳里、河回里の両班邸宅視察で、安東市南方20km程にある広徳里の寺院と広徳里の河向かいの河回里の両班邸宅の視察をした。河回とは、河がS字にくねっていることから名付けられたという。河回里には広徳里側から小舟で渡った。河回里の柳家は16世紀の李氏朝鮮創設時に力となった家柄で、現在も柳家の子孫が広大な邸宅の保存管理を続けている。参加者44人は柳家で昼食を頂き、続いて柳家の庭園で催された朝鮮の仮面舞踏を鑑賞し堪能した。

この後、河回里から30km北にある儒教の学校陶山書院を視察、陶山書院の創設者李渓氏は、当地生まれの16世紀の高官であり学者で、後進育成のために儒学を軸とした学校陶山書堂を設立した。李渓の死後、門人達が協力して現在の書院に成長発展させたという。

13日は、ワークショップとアジア太平洋地域会議で安東市の韓国国学振興院を会場にして、ワークショップとアジア太平洋会議を行ない、すべての行事を終了しソウルに戻った。文化観光ISCのワークショップの討論では、参加者から質問がでた。

1）世界遺産のある市は市民に何をさせたいのか。／韓国の両班邸宅では儒教をベースにした文化が示されたら良い。

2）伝統的工芸や料理などの生活文化はどうするのか。／両班の生活と住宅形式は独特なものがあるので、それを示したい。

3）地域文化の維持のためには若者の帰郷が大切。／儒教教育も必要な部分もある。現に良洞里では離れた市から市民がもどり、文化遺産保存のヴォランタリーアクションもある。

などのやり取りがあった。

石見銀山遺跡 現地視察と国際シンポジウム「鉱山遺跡の文化的景観」

千葉大学園芸学部　赤坂　信

2006年次第2回拡大理事会が5月27日の島根県大田市温泉津町で夕刻から開催されたが、その日の午前と午後に、石見銀山遺跡の現地視察が行なわれた。銀山柵内（ぎんざんさくのうち）と呼ばれた銀鉱山跡と鉱山に隣接して発達した大森銀山重要伝統的建造物群のある鉱山町、そして石見銀山から日本海に面す港湾への街道を訪れた。

はじめに、仙ノ山（せんのやま）方面へマイクロバスで案内された。朝から大雨。ビニール合羽とゴム長靴をお借りして、石銀（いしがね）、本谷（ほんだに）地区を歩き、本間歩、釜屋間歩、大久保間歩（間歩：まぶ 坑道）を見学した。石銀地区は仙ノ山山頂北東に位置し、そこに集落跡が発見されている。豊かな出土品などから山頂に形成された鉱山町の遺跡といわれている。本谷地区は銀鉱石の採掘場が集中する。大久保間歩（写真1）には最大の坑道があり、徳川家康に献上した銀を産出した釜屋間歩（写真2）には、岩盤を加工したテラスや坑道、またテラスをつなぐ岩盤に刻まれた階段などが見られる。

昼食後は大森地区の伝建群を見学した。鉱山に隣接して発展した大森は、江戸幕府の直轄地、石見銀山附御料150余村の中心である。武家、商家の旧宅や社寺が混在し、建造物が良く残っている地区である。1987年に国の大森銀山重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。大森地区の最大規模の熊谷家住宅を訪れ、当時の有力商人の地位や生活を窺うことができた。生産地である銀山から大森は直に見下ろす位置にあり、銀山は大森から見上げる位置にある（写真3、4）。大森の代官所跡は江戸時代二代目の奉行の時になってから、陣屋が銀山から大森に移転されたといわれている。銀山の拡大発展により、生産地と生活の場が分離したのだろう。石見銀山は16世紀以来の銀山であるが、近代（1895年）になってから建設された清水谷精錬所跡も見学した。

写真1　大久保間歩の坑道を歩く

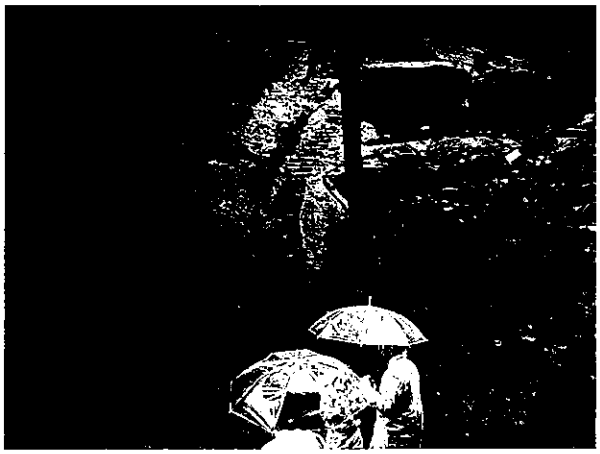


写真2　釜屋間歩のテラスと階段

写真3　石銀地区から鉱山町大森を望む

写真4　大森地区から銀山を望む

石見銀山から2つの港湾に向かって街道が延びている。これらは銀・銀鉱石などの輸送路である。この街道の一つ温泉津沖泊（ゆのつおきどまり）道を歩いた。沖泊の集落を抜け、静かな入り江にたどり着き、理事会の会場となる旅館へと向かった。

翌日は大田市の会場「あすてらす」で石見銀山遺跡国際シンポジウム「鉱山遺跡の文化的景観」が開催された（主催は島根県教育委員会・大田市教育委員会）。イギリスとドイツからジョン・ロジャー氏、H.G.デットメル氏、筑波大学から黒田乃生氏、地元から大國晴雄氏（大田市）による基調講演に続き、上記4名をパネリストに東京文化財研究所の稲葉信子氏のコーディネートによるパネルディスカッションが行なわれた。イギリスとドイツの事例はともに産業景観を世界遺産にしたものである。イギリスでは鉄と石炭で栄えた後にさびれていったブレナボン、また北ドイツのハルツ山麓の鉱山町ランメルスベルクがどのような経緯で世界遺産となったかが語られた。世界遺産となってから、また世界遺産であり続けることの苦労も感じられたが、ロジャー氏の事例報告に見られるような地元に対する世界遺産であることの意味をアピールし続けることを重視し、これに時間と予算をかける姿勢に感服した。まず地元の人に心から誇りに思えるもの、これが前提だということだろう。

座談会「文化的景観から見た熊野古道」に参加して

千葉大学園芸学部　赤坂　信

三重県が「世界遺産　熊野古道保存管理事業」の一環として開いた座談会に参加し、世界遺産と林業（森林）に関して話題提供をする機会を得た。別件の調査を終えた伊藤延男日本イコモス顧問と7月29日に津市内で落ち合い、県教育委員会世界遺産特命監の駒田さんのご案内で馬越（まごせ）峠道（紀北町）（写真1）や建設中の『三重県立熊野古道センター』を見学した。同センターは、研究収蔵棟を除き、あとはすべて木造で、県内産の木材（尾鷲ヒノキ）を用いて作られているという。しかも大径木は使わずに木材を組み合わせて建設するというこれまでにない工法について興味深い説明を受けた。その後、八鬼山（やきやま）に向かい、「世界遺産登録反対」を訴える落書きが立木や石にスプレーで書かれている現場を見た。昔からの有数な林業地だけに地元の森林地権者の合意を取らずに世界遺産登録に走った県や市を非難する文言がその落書きに見られる。中にはユネスコとかイコモスに対するものも見られたが、現代の世界遺産が抱える苦悩がそこにある（写真2）。この事件は中央紙にも取り上げられたが、地元の新聞にも繰り返し報道され、特集も組まれるほどでその取り組みにも並々ならぬものを感じた。その日は紀和町観光開発公社が経営する入鹿温泉「静流荘」に宿泊。

翌朝は丸山千枚田と鉱山資料館を視察し、松本峠道（熊野市）の古道から眼下に七里御浜（しちりみはま）を眺めた（写真3）。その浜通の古道は海岸の汀線から2.7m（1.5間）幅が古道として、さらに50m幅で陸側がバッファーとして設定されていると説明を受けた。最後に案内された高さ50mの岩がご神体という「花の窟（いわや）」（熊野市）を訪れたときの印象が、規模こそ違うが沖縄の世界遺産「斎場御嶽（せいふあうたき）」を連想させるものだったことを記しておきたい。同行の伊藤顧問も同様な印象を受けられたようだ。午後から座談会「文化的景観から見た熊野古道」が御浜町役場くろしおホールで開催された。始めに赤坂による講演『森林風景をどう見るか』、意見交換、総括という手順で進められた。講演でテーマとしたのは

時代による森林観、つまり森林の解釈の変遷である。風景の知覚についてまず話し、関心（社会的な）の集中や喪失によって価値の転換がこれまで生じてきたことあげた。近年の棚田の「発見」も、人々の関心の集中（認識）がなければ、山の田圃の風景として埋もれていたはずである。事実、森林も近代国家のドル箱として位置づけられた時代がかつてあり、そして日本の林業全体が衰退しているという現状がある。この間にも価値の転換が起きている。熊野古道が世界遺産になったことで紀伊山地は別な価値を今持ちつつある、すなわち古道という線状の遺産はそれだけでは成りたたないものであり、それは熊野の森林風景と一体となって初めて価値を持つことになる。これをむしろ森林（林業）への関心を一層高める機会とすべきではないか。以上が、講演の骨子である。意見交換の場では林業に実際携わる森林組合や地権者の人々も参加し質疑討論が行なわれた。生業である林業が生産活動としてできなくなるという誤解は、自然遺産が白神山地に登録された際（1993年）にもあった。当時は世界遺産がどんなものかも世間一般に知られていない頃である。しかし実際には、世界遺産の問題がわが身に降りかかって初めて認識する（関心をもつ）ことになるのかもしれない。討論の総括に伊藤顧問からユネスコと世界遺産条約、イコモスの役割についてその時代的な推移について述べられ、熊野古道が世界遺産として登録された意義についてまとめられた。

2日間の現地見学と座談会を終えて思うことがある。山を見て間伐をひたすら待つヒノキの林が多いように感じた。まず、その間伐材がはける（消費する）先を考えなければならない。また木材を搬出する道も必要だろう。古道を訪れる人たちにむしろこうした生業が営まれている森林をしっかりみてもらうようにしたらどうだろうか。つまりこうした森林を嘘偽りのないショウケースとしてきちんと位置づけることが必要と考える。古道も森林の作業のために期間限定で一定区間を封鎖し、可能ならば迂回路を作ることで解決できる。こうした情報はインターネットや広報で、事前に知らせることも今では容易にできる。ここで最も大事なことは、森林の中で何が起きているのかを熊野古道を訪れる人に見てもらう、知ってもらうことである。誰もがわかることばで森林の作業を解説する「説明板」が各所に置かれれば、森林のマネジメントに関心をもってもらうきっかけになるかもしれない。訪問者は作業の次の段階を見にまた熊野に来るだろう。まさに文化的景観としての林業の現場を巡るツアーも可能性として考えられる。林業地にしかできない「見せる林業」に期待したい。

写真1　馬越（まごせ）峠道の古道

写真2　落葉きにイコモスの字も…

写真3　七里御浜（しちりみはま）の眺め

お知らせ

Call for Papers

The International Journal of Heritage Studies is seeking critical reviews of heritage projects for a new series. Project reviews should not normally exceed 2000words in length inclusive of the endnotes and do not normally contain an abstract nor many endnotes. The Journal is looking for reviews of recent projects worldwide. Submissions will be considered on a rolling basis.

The project review should be emailed in Microsoft Word to the project review editor, Professor Jennifer McStotts, at mcstottsj@cofc.edu. You may email pictures and illustrations as well. Please mention the title of the journal or the words "project review" in the subject line, and please keep macros and formatting to a minimum. Also send two paper copies, "anonymised" so that the author's name cannot be inferred, plus hard copies of illustrations, to:

Professor Jennifer McStotts
Department of Sociology and Anthropology
College of Charleston
Charleston, SC 29424
USA

Questions and suggestions for projects to be reviewed should be directed to
mcstottsj@cofc.edu.

Additional guidelines are also available at
http://www.tandf.co.uk/journals/authors/rjhsauth.asp.

Thank you!

Jennifer Cohoon McStotts, MHP, JD
Asst. Professor of Historic Preservation and Urban Studies
College of Charleston
ICOMOS Committee on Interpretation and Presentation
843-953-5419 - McStottsJ@cofc.edu
http://www.cofc.edu/~mcstottsj/

日 誌　事務局

（2006年4月21日～7月28日）

4/27	第1小委員会（憲章）2006年度第1回委員会　（於　東京大学工学部一号館会議室）
4/28	前野委員長共同通信のインタビューを受ける【原爆ドームについて】（於　文化財保存計画協会） （社）日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」 2006 5.vol. 1103　を受領
5/01	全国町並み保存連盟より「町並みかわら版」30号（2005.07.01）、31号（2005.09.16）、32号（2005.12.17）、33号（2006.03.25）を受領
5/02	前野委員長、広島原爆ドーム景観問題についてTV朝日の取材インタビューを受ける（於　文化財保存計画協会） ユネスコ本部パリより、「The World Heritage Newsletter no.51 November-December 2005-January 2006」、10部を受領
5/04	第5小委員会（プロヴディヴ保存）会議開催　（於　文化財保存計画協会）
5/15	（財）ユネスコ・アジア文化センターよりACCU NEWS NO. 355 2006.5　を受領
5/16	広島原爆ドーム景観問題について日本イコモス国内委員会として「原爆ドームと祈りの景観形成に関する懸念表明（案）」を広島市長および市議会議長へ提出
5/27	2006年次第2回拡大理事会（於 島根県大田市温泉津町）開催 【JAPAN ICOMOS INFORMATION】第6期10号発行
6/9-14	前野委員長、アジア太平洋地域会議およびCultural Tourism Annual Meeting出席のため韓国訪問
6/14	三重県教育委員会事務局世界遺産特命監より、『世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」保存管理計画』2006年3月、Preservation and Management Plan for the World Heritage, "Sacred Sites and Pilgrimage Routes in the Kii Mountain Range" March 2006　を受領
6/20	第6小委員会（都市開発課題検討）、鞆の浦の架橋道路建設問題、世界遺産白川村の交通コントロール問題などについて、緊急小委員会を開催（於 文化財保存計画協会会議室）
6/20	矢野事務局長、文化遺産国際協力コンソーシアム第1回運営委員会に日本イコモス国内委員会委員長代理として出席（於 東京文化財研究所会議室）
6/26	筑波大学人間総合科学研究科世界遺産専攻より「ニュースレター vol.3　地域再生と観光戦略プロジェクトニュース」（2006年3月）を受領
6/28	第1小委員会（憲章）2006年度第2回委員会　（於　東京大学工学部一号館建築史作業室）
6/29	矢野事務局長、第1回平泉景観形成審議会（於 平泉役場）に日本イコモス国内委員会より出席（「重要文化的景観から見た骨寺村荘園遺跡の価値」について発表）
7/5	【JAPAN ICOMOS INFORMATION】第6期10号、NPO文化財保存支援機構「タイ国世界遺産遺跡スタディーツアー」案内、2006年6月現在日本イコモス国内委員会会員名簿訂正表、事務局移転案内など、維持会員を含む全会員および関係団体に順次送付
7/14-22	スウェーデン・イコモス委員長Marie KLINGSPOR-ROTSTEIN女史が来日、浅草、江戸外堀などを前野委員長がご案内
7/19	第6小委員会（都市開発課題検討）白川郷交通問題について打ち合わせ、東京大学（西村幸夫研究室）にて （財）ユネスコ・アジア文化センターよりACCU NEWS NO. 356 2006.7、（社）日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」2006 7.vol. 1104　を受領
7/26	前野委員長、文化遺産国際協力コンソーシアム運営委員の委嘱を受ける
7/27	木簡学会より「平城宮・宮跡の木管の保存を訴える要望書」、高速道路から世界遺産・平城京を守る会より「第30回　世界遺産委員会への日本NGO報告」及び関係資料を受領
7/28	世界遺産「原爆ドーム」の景観問題についての日本イコモス国内委員会懸念表明文（英訳）、写真・図を添付しPetzet氏及びICOMOSパリ本部へ報告のため送付

日本イコモス国内委員会　維持会員（代表者）

株式会社　尾田組（尾田芳信）
株式会社　総合計画機構（糸谷正俊）
株式会社　乃村工藝社（乃村義博）
株式会社　文化財保存計画協会（矢野和之）
株式会社　トリアド工房（伊藤民郎）
株式会社　京都科学（片山　保）
株式会社　小林石材工業（小林美和）
株式会社　鴻池組（大岩祥一）
株式会社　都市環境研究所（矢嶋啓自）
株式会社　ブレック研究所（杉尾伸太郎）
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会（有賀　正）
西武建設株式会社（大澤茂治）
北野建設株式会社（北野次登）

（敬称略・順不同）

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会　理事会　JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野　まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		町田　　章	Akira MACHIDA
Secretary General	事務局長	矢野　和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理　事	赤坂　　信	Makoto AKASAKA
		稲葉　信子	Nobuko INABA
		岡田　保良	Yasuyoshi OKADA
		小野　　昭	Akira ONO
		河野　俊行	Toshiyuki KONO
		田中　哲雄	Tetsuo TANAKA
		西浦　忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎　一志	Kazushi HAMAZAKI
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		益田　兼房	Kanefusa MASUDA
		宮川　朝一	Asaichi MIYAKAWA
		山田　幸正	Yukimasa YAMADA
		渡邊　保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監　事	沢田　正昭	Masaaki SAWADA
		西谷　　正	Tadashi NISHITANI
Advisors	顧　問	石井　　昭	Akira ISHII
		伊藤　延男	Nobuo ITO
		坪井　清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会　WORKING GROUPS

Chiefs	主　査	藤井　恵介	Keisuke FUJII
		稲葉　信子	Nobuko INABA
		石井　　昭	Akira ISHII
		益田　兼房	Kanefusa MASUDA

●国際諸委員会参加者　REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田　保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野　まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Heritage Management	小野　　昭	Akira ONO
	岸本　雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration	花里　利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本　　功	Isao SAKAMOTO
	西澤　英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川　裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野　邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage	荒木　伸介	Shinsuke ARAKI
Training	稲葉　信子	Nobuko INABA
	工楽　善通	Yoshimichi KURAKU
Historic Gardens and Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中　　眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野　まさる	Masaru MAENO
	大野　　敏	Satoshi OHNO
Wood	村上　裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤　延男	Nobuo ITO
	渡邊　保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田　保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田　好史	Yoshifumi MUNETA
	石井　　昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野　俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田　　修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾　邦江	Kunie SUGIO
	大野　　渉	Wataru OHNO
Stone	西浦　忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎　武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田　兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川　　勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI

JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.6, No.11 15 SEPTEMBER 2006

日本イコモス国内委員会　委員長　前野まさる

事務局担当理事　矢野和之　　編集　赤坂　信

〒101-0003　東京都千代田区一ツ橋 2-5-5　岩波書店一ツ橋ビル 13 階

株式会社　文化財保存計画協会　気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS National Committee OFFICE

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp